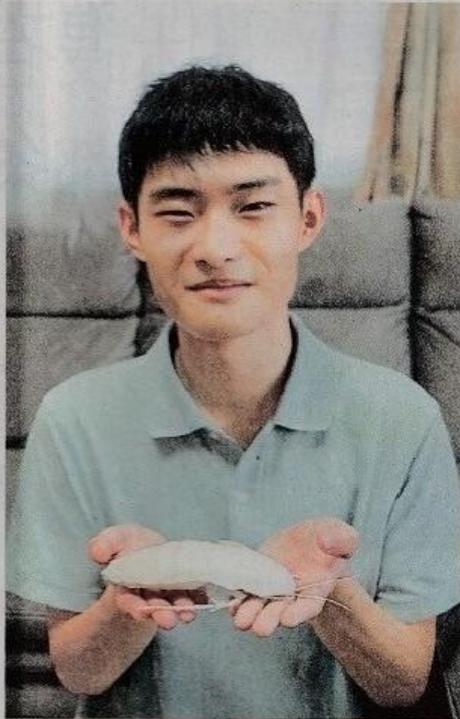


「いつか個展を開きたい」と語る
時村さん



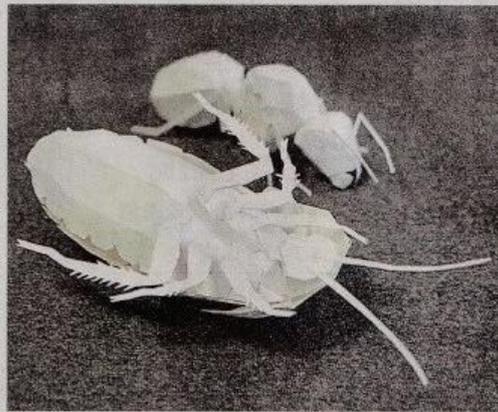
時村さん(丸亀)ペーパークラフト

ゴキブリ愛 白く美しく

一般的に嫌われ者とされているゴキブリが、愛好家の手によって「アート作品」になった。制作したのはNPO法人「みんなで作る自然史博物館・香川」(まんのう町)の会員、時村飛鳥さん(24)「丸亀市」。腹側の様子まで精緻に再現しつつ、白く美しいペーパークラフトに仕上げられており、ゴキブリ愛にあふれた作品となっている。

ペーパークラフトのモチーフは、雌のアルゼンチンモリゴキブリ(通称デュビア)。シのような外観が好き」と時南米などに生息しているゴキブリで、日本のクロゴキブリとよく似ており、腹部を構成する腹節やワモンゴキブリのようなキラキラした艶はなく、つるつるとした壁を登れないなどの特徴がある。実物は成虫で体長約4センチだが、展開図を自作し、デュビアは、爬虫類の餌用として飼われることもあり、ここからペットにする「ペ

腹側も精緻に「いつか個展を」



時村さんが制作したデュビア(手前)とクロオオアリ

ットローチ」にはまる人も多いとされる。時村さんも高校時代にデュビアと出会い、大学では寄生バチの研究をする傍ら、ペットとして飼育していた。「脱皮直後は真っ白だが目だけは黒く、よく見ると垂れ目なのがかわいい」と語る。現在は家族と同居のため飼っていないという。作品は大学時代に作ったデュビアが最初で、その後もクロオオアリやガの一種、ワモンスズメなどを手がけてきた。時村さんは一年々細かく再現できるものになってきた。いつか作品を集めた個展を開きたい」と意欲を見せている。